

タヌキモ科

ミカワタヌキモ

Utricularia exoleta R.Br.

兵庫県ランク… A

環境省ランク… VU

■ 県内分布

阪神、東播磨、淡路

■ 国内分布

本州(東海以西)、九州、琉球諸島

■ 選定理由

人為性		特殊性		学術性	
生育環境破壊	○	特殊生育環境	○	特殊な分布	
観賞用等採取		特異な生態		分布の限界	
				希少	○

詳細は非公開

■ 特記事項

自生地が少ない上に小規模なため、知られずに生育環境が人為的に破壊される可能性がある。

■ 保護上の留意点

生育地である河川・ため池環境の保全が重要である。



写真提供:松岡成久

■ 種の概要

タヌキモとミミカキグサの中間的な生活様式をもつ多年草。水面すれすれの泥上を匍匐して、捕中囊をつけた地中葉で固着する。越冬芽をつくらない南方系の種で、軸の先は渦巻状に巻く。水中葉はまばらに軸につき、小さくて、長さはせいぜい1cm程度、1-5個の裂片に分裂し、裂片にはまばらに細かい鋸歯があり、まばらに捕中囊をつける。8-9月に高さ5-8cmの花軸を生じ、1-3個の花をつける。花は黄色で径5-6mmになり、萼は長さ約2mmで、花後もほとんど生長しない。距は前向き、下唇と同長か、またはやや長い。花柄は花後3-6mmになり、斜上して多少曲がるが下垂はしない。